

企業見学会議事録

コクヨ企業訪問

日時： 2011年8月23日（火） 13:30～16:00

場所： コクヨ大阪本社 5F及びショールーム

趣旨： 『働く事』に対する現実感と、社会人になるための心構えの醸成。

スケジュール

内容	時間帯	詳細
挨拶・スケジュール説明	13:35-13:50	コクヨファニチャー(株) 関西OS本部 GL担当者様よりご挨拶
座学1	13:50-14:10	コクヨファニチャー(株) 関西OS本部 担当者様より、5F XVDシアターにて、オフィス説明 【オフィスの歴史と、現在のオフィス】
オフィス見学	14:10-14:45	5Fライブオフィス見学
ショールーム見学	14:45-15:15	
座学2	15:15-16:00	コクヨ(株) 本社統括部 環境グループ 担当者様より。 5F XVDシアターにて、コクヨの環境への取組み説明。【コクヨグループ 環境への取組み 『結いの森』】
ディスカッション・総評	16:00-	5F XVDシアターにて 【学生と社会人の違い】 ファシリテーター：関西OS本部 GL 担当者様 小西先生より総評を頂いて終了

①座学1

【オフィスの歴史と、現在のオフィス】

★コクヨプロフィール

- ・社名・・・コクヨ株式会社
- ・代表者・・・黒田章裕
- ・創業・・・1905年10月
- ・従業員数・・・4991名
- ・コクヨの企業理念「商品を通じて世の中の役に立つ」
- ・事業内容・・・文具全般、さらにはオフィス家具の製造・販売からオフィス空間構築等のサービス分野へと、時代のニーズが多様に変化するにつれ、コクヨの事業は拡大している。

★ワークスタイルとワークプレイス

- ・様々なワークスタイルの説明。コクヨオフィス内でのワークスタイルは時代とともに常に変化し、コクヨが提案するワークスタイルは、コクヨ以外の様々なオフィスでも採用されている。



島型対向式

オフィスレイアウトにおけるデスク配置パターンのひとつ。

スペース効率が良く日本ではもっとも多くみられるパターン。情報処理型のワークスタイル。

フリーアドレス

働く場所を自分の席だけに限定せず仕事の内容によって最適な場所を選べる「適業適所」がコンセプト。オフィス内を自由に移動できるワークスタイル。個人のデスクが決まっていないため、社員同士のコミュニケーションや交流の促進に役立つ。また、デスクで一日仕事をする事務系の部署では「空席時間」は発生しないが、営業部や企画部など、外出時間の長いオフィスでは、デスクスペースの稼働率は低く、大きなスペースロスが発生するため、フリーアドレスでは空間の有効活用に役立っている。

★コクヨが開発した独自のフリーアドレスシステム「OfficeDARTS」

コクヨオフィスシステムの「OfficeDARTS」は、フリーアドレス制オフィス向けの座席割り当てシステム。席で行いたい作業内容や作業時間を入力すると、自動で席を割り当ててくれる。利用者の誕生日や趣味などに合わせて席順を決定するオプション機能も備えている。このダーツシステムは、コクヨのオフィス空間設計担当事業によって開発された。

★社員の方の話

フリーアドレス制を導入しているが、社員の席は自然と決まってくる。

社員同士、コミュニケーションがとりやすい。

丸い机や変形してあるテーブルは、同じくコミュニケーションがとりやすくなるために開発されている。

オフィスは“人が生活する場”。分煙制度の導入など、経済産業省による法案によりオフィスの概念が変わった。

ノンテリトリアル型

会社フリーアドレスからさらに、効率性（はかどり）への追究と、創造性（ひらめき）、さらにはマインド面も含めた快適性への挑戦といった、ユニバーサルプランと呼ばれるこのワークスタイルが現在コクヨのオフィスで主流になっている。

・オフィスでの生産性がよりよい Output につながる

コクヨがオフィス空間にこだわるのにはわけがある。

オフィス空間を快適なものにする→社員同士が知的生産の場面で刺激し合い、意識が向上する→営業や商品開発において成果が表れる。

ものづくりのアイデアは、工場ではなくオフィスの中で創造される。



★生産性を良くするためには？

“場の空気”を良くすること。

ルールを変える、人の意識を変える。新たな概念・価値感を生み出す。

★ムービーによるオフィスの説明

発散型のスペース・・・情報の発信や共有ができる。

創造性を高めることのできるオフィス。ジグザグ動線でお互いの存在を感じることで、知的創造のサイクルができる。アイデアが出しやすくなる。

②オフィス見学

ここでは実際にコクヨファニチャーのオフィスを見学させていただいた感想を述べたいと思います。

今回のオフィス見学で働く環境のイメージががらりと変わりました。以前は、島型対向式でもくもくと仕事に取り組んでいて、オフィス全体が無機質なイメージでした。しかしコクヨのオフィスに一步足を踏み入れた瞬間、カラフルで、丸やいろんな形のデスクがあって、とても明るい印象を受けました。フリーアドレスであることや、様々な形をしたデスク、ジグザグにデスクが配置されていることは、社員同士がコミュニケーションをとり、生産性を向上させることにつながっています。実際に案内してくださった社員の方も、デスクの配置がジグザグであることで、どのデスクの人にも挨拶ができ、コミュニケーションのきっかけが作れるとおっしゃっていました。

また、ステップごとの会議室にも驚きました。ステップごとの会議室とは、ブレインストーミングをする会議室、ブレインストーミングで出たアイデアを整理していく会議室と、会議の段階別に空間が分けられています。空間に椅子が置かれていないのは、その方が自由で新しいアイデアが生まれやすいからなのかと感じました。

今回のオフィス見学で、コミュニケーションと働く環境は密接に関連していることを実感しました。

石田 このみ

③ショールーム見学

ショールームではコクヨの歴史、コクヨ製品とエコバツマークの紹介、オフィス家具の紹介をしていただきました。

エコバツマークとは地球温暖化が問題になってきたときに、コクヨがいち早く環境に配慮が欠けている商品にバツマークを付け、バツマークをなくしていくことでコクヨの製品はすべてエコにしようという取り組みです。つくるとき・はこぶとき・つかうとき・すて

ときの四つの段階で環境に配慮しているか検討されます。消費者の目が届かない、つくる時、はこぶ時までエコであるか見直されているところから、コクヨが環境問題に真剣に取り組んでいることが伺えました。

また、コクヨの製品にはユニバーサルデザインであるものが多く、人にも環境にも配慮した会社であると感じました。

オフィス家具は、状況に応じて変形することでスペースや作業の無駄をなくすものや、機能別の棚やデスク、椅子など想像以上にたくさんの製品があって驚きました。

石田 このみ

④座学2

(コクヨの環境への取り組み説明)

- ・コクヨ本部総括部斎藤様によるプレゼンテーション
- ・組織体制の説明
- ・企業理念の説明

★コクヨ-四万十・結の森プロジェクト

コクヨは CSR 活動として地球温暖化の防止への貢献に注力している。

高知県四万十流域の森林で「コクヨ-四万十・結の森プロジェクト」を行っている。

荒廃したヒノキとスギの人工林を対象に、間伐などの適正管理を実施することで森林の再生を図り、同時に間伐で得られたヒノキ材を使って「結の森」オリジナル商品を製造・販売するなど「環境と経済の好循環」を目指している。

『循環型社会+低酸素社会+自然共生社会』

- ・日本の森林が抱える問題

昭和 30 年には木材の 9 割以上は国内で賄っていた。

現在は木材の 7 割は海外の輸入に依存＝安価なため

しかし、日本の森林は戦後の植林計画により増えている。それらはスギやヒノキなどが多く、人間が手を入れた森である。日本の森では鹿が異常に増えてきている。

- ・多くの企業が木を植えるのは、間伐を防ぐため。

→コクヨは紙を多く使う会社であるため、この間伐もうまく利用している。

- ・京都議定書で、設定された日本の CO2 排出削減目標は-6%である。

- ・ CSR 活動の課題と期待
 - ー 環境省が行う J-VER 制度や森林認証など行政の後押しがある。ISO
 - ー 環境保全活動を続けるには経済的側面がやはり難しい
 - コスト高
- ・ 安定した品質の維持
 - 社会貢献だけでは、経済活動は続かない

⑤ ディスカッション

コクヨ若手社員の方に、学生と社会人との違いについてのディスカッションでは、〈時間管理〉〈コミュニケーション〉〈学生と社会人の行動の変化〉についてお話をしてくださいました。

時間管理においては、社会人になると、学生時代とは違い、締め切りのある課題が増え、しっかり締め切りを守るために余裕をもっておくこと、一緒に仕事を進めていく人とスケジュールを共有し、時間を調節しなければならないことを学びました。

また、スーパーフレックス制であることも、生産性を高める一つの要因になっているのではないかと感じました。

コミュニケーションでは、自分と世代が違う社員と話すには勉強が必要だけれども、学ぶことが多く、直接会話することが重要だとわかりました。お客様とのコミュニケーションでは、ただ商品を提供するだけでなく、相手のニーズを引き出し、次につながるような会話をする、なにより誠意や態度が大切だということも学びました。

社会人になって変化した行動には、お客様の前では会社代表として行動すること、考えるから行動するのではなく、行動しながら考える、仕事や情報の共有の重要性をお話してくださいました。

私はどの項目もまだまだなので、社会人になる前に日々向上させていきたいです。

石田 このみ

文責：石田このみ、半田有佳、江村望